

国際リゾートとっとりプラン（案）に対するパブリックコメント実施結果について

平成25年3月26日

国際観光推進課

1 パブリックコメントの募集内容

外国人観光客の誘客による経済効果や交流人口拡大を目指して、平成22年度から「鳥取県国際観光アクションプログラム」に取り組んできたが、このたび、「国際リゾートとっとりプラン」として発展的に改正することとし、県民からの意見募集を行った。

- (1) プランの趣旨 外国人観光客の増加を目指すための国際観光振興の取組に関する指針
- (2) 計画期間 平成25年度～27年度（3年間）
- (3) 主な内容 誘客に向けた基本戦略、今後の取組（海外PR、受入環境整備）

※特に意見を伺いたい内容として、以下の2点を例示。

- ①鳥取県が積極的に外国人観光客誘致に取り組むことについて、どのように考えますか。
- ②外国人観光客への鳥取県のアピールポイントはどのようなことだと考えますか。

2 実施期間

平成25年2月8日（金）～3月4日（月）

3 意見件数

274件

4 主な意見の内容と県の考え方

項目	意見の内容	県の考え方
戦略・誘客対象	中国や韓国は領土問題に観光客数が左右されるが、距離も近く日本との結びつきも強いので、そのあたりを重点的に集客すべき。東南アジアは時期尚早。	国レベルの政治的な対立と観光客誘致は切り離して考える必要がある。
	東南アジアでは日本の観光PRは遅れており、今後、大きく伸びる。	韓国、中国は台湾と合わせて重点市場と考えており、特に誘客を推進していく。東南アジアについては、将来的な誘客を見据えて調査等を実施。
	反日国である中国、韓国からの誘客には反対。親日国である台湾、東南アジアからの誘客を推進すべき。	
	外国人よりも日本人観光客の誘客に力を入れるべき。	少子高齢化の進展や不況の影響などから、国内の旅行市場の大きな伸びが期待できない中、新たな市場として、外国人旅行者の誘客促進が求められている。

	<p>現在、豪華客船が寄港しており、これを国際観光振興の柱の一つにすべき。</p> <p>海外からの貨客船誘致は良いが、あまり経済効果が得られていない。旅行途中の上、滞在時間も短く、お金があまり落ちていない。</p>	<p>クルーズ客船による誘客は本プランの戦略に盛り込んでおり、積極的に推進していく。また、多数の観光客来訪の経済効果を取り込めるよう、県内の体制を整えていく。</p>
目標数値	<p>目標に観光客数を用いているが、費用対効果を求める上で金額で表示すべき。人数を増やそうと思えばいくらでも増やせるが、本来の目的から離れてしまう。</p>	<p>観光消費額等の統計データがないため、統計データのある観光客数を用いているもの。引き続き費用対効果を考えつつ、誘客を図っていく。</p>
受入環境整備	<p>多言語看板などは景観を損なう。多言語対応はIT機器の活用。景観と、伝統、文化の保護で日本や鳥取の歴史と今を楽しんでもらうのが良い。</p>	<p>外国人の利便性向上のため、看板等の多言語化は必要であるが、景観や日本人観光客の印象にも配慮した整備を進める。</p>
プロモーション	<p>「MICE・教育旅行・国際交流等の多様な誘客」とあるが、交流は観光と性質が異なる。交流は相互訪問で経済効果が半減する。</p> <p>羽田空港国際線を利用した欧米等のプロモーションも必要。</p> <p>観光は一つの県だけで考えるのではなく、隣接する県や地域とのパッケージで考えることが必要。</p>	<p>国際交流は、相互理解等において有意義なものと考えているが、他との性質が異なるという指摘を踏まえて、文言を修正。</p> <p>既に盛り込んでいるとおり、既存の米子空港・境港利用の誘客だけでなく、羽田空港乗継による鳥取空港、米子空港利用の誘客のほか、関西空港他の近隣空港の誘客にも積極的に取り組む。</p> <p>既に盛り込んでいるとおり、広域連携による誘客を推進。</p>